



里山の環境整備に尽力 ハサンベツ里山作業日

ハサンベツ里山作業日が7月11日に行われ、町民など約25人が参加しました。参加者はミズバショウの苗を手入れしたほか、チェーンソー、斧などで薪割りを実施。また、河川整備では周辺の砂利や倒木を利用し、昨年整備した小川にダムを作りました。ハサンベツ里山作業日は毎月第2日曜日に開催し、次回開催は8月8日の予定です。



学び合いで人をつなぐ 「おとなの寺子屋」開講

町内在住の起業家である吉田飛鳥さんと、唯専寺の村上円住職が7月10日、同寺の本堂で「おとなの寺子屋」を開講しました。学び合いを通じて人と人をつなぎ、地域を活気づけることが目的の「寺子屋ぷろじえくと」の一環。第1回は料理研究家で管理栄養士の井澤綾華さんが「大人の食育シリーズ」と題し、減塩と高血圧の関係などについて講演しました。



介護福祉、初めの一步 継立小学校と介護福祉学校が交流

継立小学校で7月3日、全校児童が土曜授業の一環で、北海道介護福祉学校の学生と交流しました。介護学生の指導のもと、児童が3班に分かれて認知症に関する絵本の読み聞かせと講話を聞いたほか、障がい者スポーツのボッチャ、車いすの操作を順番に体験。車いすの操作では、初めて動かすことに緊張しながら、前進、方向転換、ブレーキのかけ方などを学んでいました。



白球を追いかけて 第60回全町ソフトボール大会

全町ソフトボール大会が、6月30日から運動公園で行われました。60回目の節目となる今回は、町内5チームが参加。大会はトーナメント制で、7月6日に行われた決勝戦では、朝日4丁目と旭台が対決。試合は朝日4丁目初回から本塁打を放つなど打線がつながり、15-2で勝利しました。試合後の表彰式では、南條宏教育長から表彰状と優勝旗を贈呈されました。



仲間と歩いてゲームに挑戦 くりやまウォークラリー

友達や家族と町内を歩き、栗山の魅力を再発見してもらおうと、第27回くりやまウォークラリーが7月18日、スポーツセンター発着で行われました。今年は15チーム75人が参加。駅前商店街通りや栗山駅周辺などに設置された各ポイントを回り、的当てや輪投げなどのゲームや「泉麟太郎」「小林酒造」など栗山にちなんだクイズを楽しみながらゴールを目指しました。



昭和の風景を垣間見る 牛田克彦版画作品巡回展

町開拓記念館で7月14日から25日まで「牛田克彦版画作品巡回展」が行われました。元栗山小学校教頭の牛田克彦さんが描いた、版画作品73点を展示。昭和20年～30年代の子どもの遊び、食卓の風景、農作業の様子などを見ることができます。なお、同展は7月28日から8月8日まで、カルチャープラザ「Eki」でも開催されています。



チーム一丸となって 栗山ロッキーズが全国大会出場

少年野球チーム「栗山ロッキーズ」が、昨年の「2020全道秋の選抜大会」で上位の成績を収めたことにより、徳島県阿南市で行われる「第9回野球のまち阿南少年野球全国大会」の出場を決めました。7月9日、同チームの選手5人と錦古里和宣監督が佐々木学町長に報告。キャプテンの田中凜さんは「北海道の代表として、チームが一つになるように頑張ります」と話していました。



紫の羽美しく 小学校でオオムラサキが羽化

角田小学校と継立小学校の児童が育てたオオムラサキが、7月上旬に羽化しました。児童は5月にオオムラサキ館を訪問し、幼虫とエサになるエゾエノキの苗木を借り受け、水やりなどの世話を協力して実施。羽化したオオムラサキは時間をかけて羽を広げると、やがて元気に飛び始めました。角田小学校1年生の萩山綾音さんは「羽の紫色がきれいでした」と話していました。

